

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	Davis Christopher Michae		所 属	法文学部 国際言語文化学科		職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.50	明確なシラバスに基づいて講義を行う。英語語学系の授業は、できるだけ英語で行い、学生によるスピーキングとディスカッションの時間を重視する予定である。また、授業資料やテスト等を、これまでよりオンラインで行うように心がける。国際言語文化学科英語文化専攻4年次(昼間)の指導教員として、学生の指導に心がける。今までの進路について相談しながら、卒業と就職に向けた指導をする。		0.50	予定通りに目標を達成した。特に4年次の指導教員として、一人ひとりの学生の卒業予定を聞いて、それに向けた相談を行って、ほとんど問題なく卒業したい学生は卒業できた。		
研究	0.35	沖縄語(ウチナーグチ)の証拠性(evidentiality)の意味論的研究を行い、研究成果を発表する。日本語のデータに基づいて「エクスペシヴ」(expressive)意味の研究を行い、研究成果を発表する。以上の研究を国際学会で発表し、それぞれ論文でまとめて発表する。琉球諸語の調査を続けて、データの公開にむけた書き起こしと処理を行う。		0.35	予定以上に目標を達成した。沖縄語の証拠性の意味論研究は、3つの国際学会で発表し、来月に学会誌に論文を出す予定である。日本語の「エクスペシヴ」意味の研究も、国際学会で発表し、論文も当学会の雑誌で出版された。八重山語のフィールド調査も続けて、その研究成果も発表した。		
社会 貢献	0.05	八重山語宮良方言の継承に向けたデジタル資料を作成し公開する。		0.05	予定通りに目標を達成した。八重山語宮良方言のデジタル資料・学習資料にむけて、「大きなカブ」等のテキストの音声と書き起こしを作成し、その一部を文化庁に保管してもらった。		
管理 運営	0.10	外国語センター運営委員や、他の委員会委員として努力する。		0.10	予定通りに目標を達成した。		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		DELBARRE FRANCK	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.60	週7回授業を行い(ラテン語の授業を含める)、その準備や定期的小テストの採点とともに、学生のフランス語資格取得支援、卒論指導など			0.60	予定通りに円滑に行った。また、学部改組を背景に、来年度の授業のカリキュラムを考え始めた。		
研究	0.20	フランス地方言語についての論文とフランス語教育についての論文発行予定、書物出版予定			0.20	論文発行:L'effacement du verbe « être » dans le dialecte francoprovençal de la Bricoire. Ôbei bunka ronshû, vol. 61, 21-39 ; Pédagogie du subjonctif en milieu japonophone et contextualisation / adaptation de la grammaire du FLE. Revue japonaise de didactique du français, Vol.11-1&2, 63-79 ; 書物出版:ネイティブが教えるカタコトから一歩進んだフランス語 (DELBARRE Franck, GRAS Alexandre, OWAN Sadamune)、駿河台出版社、248ページ		
社会 貢献	0.00	琉球大学においてフランス語の公開授業(週4回あり)			0.00	予定通りに行われた。		
管理 運営	0.20	法文学部将来企画委員会委員、学生生活委員会委員、学部改組4専攻WG委員、遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会委員、沖縄外国文学会編集員、日本フランス語教育学会編集員			0.20	予定通りに行われた。		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		Till Weber	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	(1)楽しく効果の上がる学習者中心の授業をさらに進め、外国語教育の充実をはかる。 (2)各種FD活動の機会を活用し、授業技術のレベルアップに努める。 (3)提携校からの留学生を授業補助者として有効活用する。		0.40	(1)目標を十分達成できた。(2)各種FD講習会に参加し、目標を達成できた。 (3)目標を十分達成できた。		
研究	0.30	(1)各種ドイツ語関係のワークショップ(DaF-Werkstatt)に参加する。 (2)「海外文化研修」引率の機会や学会等を利用し、ドイツ語教育(教科書)に関する最新の資料を収集・分析する。 (3)DAAD(ドイツ学術交流会)研究員として様々な学会活動に寄与する。		0.30	(1)目標を十分達成できた。(2)予定通り、当初の目標を十分達成できた。 (3)これまで通り、目標を達成できた。		
社会 貢献	0.20	(1)琉球新報カルチャーセンタードイツ語コース講師及び沖縄県立芸術大学非常勤講師として、沖縄県におけるドイツ語・ドイツ文化の普及に協力、貢献する。 (2)担当の「インテンシブドイツ語I・II・III・IV」のクラスを公開授業とする。 (3)在沖縄ドイツ国名誉領事として、その職責を全うする。(4)OCVB観光アドバイザー(ドイツ語圏)として沖縄県の観光発展に寄与する。		0.20	(1)目標を達成できた。(2)目標を十分達成できた。(3)これまで通り、目標を達成できた。(4)目標を十分達成できた。		
管理 運営	0.05	法文学部国際交流及び共同研究に関する委員会委員、グローバル教育支援機構外国語ユニット委員オープンキャンパス委員その他委員会委員としての職務を遂行する。		0.05	目標を十分達成できた。		
進路 指導	0.05	専攻卒業生のネットワークや大学就職センター等を活用し、学生の進路指導・就職指導を進める。		0.05	目標を達成できた。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		喜納 育江	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	30.00	①共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」コーディネーター;「総合環境学概論」オムニバス1回担当②法文学部英語文化科目担当:「リーディング1」、「異文化理解」、「アメリカ文学概論(昼・夜)」、「20世紀アメリカ文学」;卒論指導3名③人文社会科学研究科科目提供:アメリカ女性文学概論および演習;総合演習、アメリカマイノリティ文学特論および演習(博士後期);博士学位論文指導(副査)1件;④国際連携教育の推進⑥その他、留学や奨学金のための推薦書をはじめ、学生から要望のある進路相談には出来る限り対応する。			30.00	設定した年度目標はすべて達成した。		
研究	30.00	①科研費基盤研究B「アメリカ的グローバリズムと島嶼の文化的社会的変容に関する研究」(H28-30) 研究代表者;②翻訳、書評論文、研究論文の出版③国内外での学会発表・学会活動			30.00	① 目標を達成した。また九州大学・小谷耕二教授代表科研B「ホームランド」の政治学～アメリカ文学における帰属と越境の力学に関する研究」の研究分担。② 名古屋大学大学院「アジアの中の日本文化」研究センター主催シンポジウムにて招待発表。(成果:喜納育江『南島』から『シマ』へ—崎山多美の文学における島嶼共同体と女性』『Juncture 超域的日本文化研究』(同センター機関誌)第8号(2017):14-27)。その他に喜納育江『場所』との交感—崎山多美と『シマ』の想像力」を野田研一編著『<交感>自然・環境に呼応する心』(ミネルヴァ書房、2017年)の第2章として出版 ③ミシガン大学Institute for Research on Women and Gender主宰のセミナー “Radical Transnationalism: Reimagining Solidarities, Violence, Empire” にて招待発表(2017年3月16-19日)。		
社会 貢献	20.00	①沖縄県男女共同参画審議会(副議長);②地域社会からの協力依頼(翻訳事業、派遣留学等審査員)には積極的に対応するようにする;③一般財団法人「竹村和子フェミニズム基金」理事・審査員④学術的貢献(論文査読、各種審査員)			20.00	①と③の目標を達成した。②については、ひめゆり平和祈念資料館英文ガイドブック翻訳業務(2016年8月)、金武町男女協働参画講演会講師(2017年1月18日、金武町民会館)を務めた。		
管理 運営	20.00	①ジェンダー協働推進室長、②国際沖縄研究所国際学術誌IJOS編集委員長;③法文学部広報委員、英語文化専攻オープンキャンパス委員;④その他、大学の要請には可能な限り対応する。			20.00	全て目標を達成した。(IJOS: International Journal of Okinawan Studiesは第11号を発行した。)		
	0.00				0.00			
計	100.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			100.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉井 巧一	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	(1)楽しく効果の上がる学習者中心の授業をさらに進め、外国語教育の充実をはかる。 (2)各種FD活動の機会を活用し、授業技術のレベルアップに努める。 (3)提携校からの留学生を授業補助者として有効活用する。 (4)テニス部顧問として学生の指導に当たる。			0.30	(1)Webクラス・Skypeクラスを開講するなど、目標を十分達成できた。(2)各種FD講習会に参加し、目標を達成できた。(3)目標を十分達成できた。(4)これまで通り、目標を達成できた。		
研究	0.30	(1)各種ドイツ語関係のワークショップ(DaF-Werkstatt)に参加する。 (2)「海外文化研修」引率の機会や学会等を利用し、外国語教授法に関する最新の研究資料を収集・分析する。 (3)日本独文学会西日本部会幹事として学会活動に寄与する。			0.30	(1)大学紀要に研究成果を寄稿し、目標を十分達成できた。(2)予定通り、当初の目標を十分達成できた。(3)これまで通り、目標を達成できた。		
社会 貢献	0.20	(1)沖縄日独協会理事、沖縄国際大学・国立高専及び沖縄県立芸術大学非常勤講師として、沖縄県におけるドイツ語・ドイツ文化の普及に協力、貢献する。 (2)担当の「インテンシブドイツ語I・II」のクラスを公開授業とする。 (3)独検(ドイツ語技能検定試験)沖縄地区実施責任者として貢献する。			0.20	(1)目標を達成できた。(2)目標を十分達成できた。(3)これまで通り、目標を達成できた。		
管理 運営	0.10	グローバル教育支援機構外国語ユニット長(旧外国語センター長)、法文学部教育委員、その他委員会委員としての職務を遂行する。			0.10	目標を十分達成できた。		
進路 指導	0.10	大学就職センター等を活用しつつ、学生の進路指導・就職指導を進める。			0.10	目標を達成できた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮平 勝行		所 属		法文学部 国際言語文化学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.40	学部及び大学院(前期・後期課程)の講義をシラバスに基づいて計画的に行う。学部教育においては対話を重んじた参加型の講義を目指す。留学生も受講できる英語講義を提供し、日本人学生との共学を図る。卒業論文を受講している学生(1人)を丁寧に指導する。大学院教育においては受講生が国際的な視野を養えるように英文の教材を中心とした講義を行う。大学院生(2人)の修士論文指導を丹念に行う。教育実習に参加する学生を励まし、研究授業へ参加する。学科・専攻が一丸となって取り組む就職・進学に関する啓蒙活動に協力する。				0.40	合計で12コマ(前期6コマ、後期6コマ)の授業を担当した。学部教育も大学院教育も概ねシラバスに沿って計画通りに進めることができた。「英語スピーチ」と「英語ディベート」を英語で教えたところ、受講生は積極的に授業活動に参加してくれた。留学生との共学や英語のテキストを用いることで国際的な視野が養える講義運営ができた。博士前期課程で2人の大学院生を指導し、1人は優れた修士論文を執筆した。もう1人も着実に研究活動を進めている。博士後期課程の大学院生とは総合演習の授業を通してディスカッションを重ねた。校育実習の視察や専攻内の校務にも積極的に参加した。(A)				
研究	0.25	10月に開催される第5回「世界のウチナーンチュ大会」で沖縄を訪れる海外移民子弟を対象に聞き取り調査を行い、継承沖縄語と現代沖縄ことばの比較研究のためのデータ収集と分析を行う。一年間延期した基盤研究(C)「継承沖縄語と大和沖縄語—談話構造とコミュニケーション方略の国際比較研究」の研究成果をまとめる。				0.25	基盤研究(C)の研究期間を延長し、第5回「世界のウチナーンチュ大会」で沖縄を訪れる海外移民子弟を交えた談話資料を収集し、継承沖縄語と現代沖縄ことばの比較研究を進めた。その成果の一環として言語文化研究紀要(SCRIPSIMUS)に「沖縄ことばのモダリティ標識『しようね』の一考察」を発表した。最終年度にあたり研究成果の総括に取り組んだ。(A)				
社会 貢献	0.10	COC事業(ちゅら島の未来を創る知の津梁)の一環として行っている英語講義を実践する。また、英語による教授法の進展を図るため学内外から専門家や実践教員を招いてシンポジウムを行う。英語ストーリー・コンテストや英語ディベート・コンテストなどで審査員(長)を務め、中高生の英語運用能力の向上を支援する。				0.10	COC事業(ちゅら島の未来を創る知の津梁)の一環である英語講義を実施した。他の教員の協力も得て受講生を対象にアンケート調査を行い、その結果を集計した。また、ドイツのフライブルグ大学から英語で教える授業(EMI)の専門家を招いて講演およびワークショップを開催すべく準備を進めた。沖縄キリスト教学院大学では「社会言語学特論」という大学院科目を提供した。(A)				
管理 運営	0.25	人文社会科学研究科比較地域文化専攻主任として、カリキュラムの円滑な運営に取り組む。海外沖縄研究者養成のための特別プログラムなどの事業などを推進する。複数の入試関連業務に携わり、委員会活動を取りまとめる。英語文化専攻が学生や非常勤講師に提供しているパソコンなど情報機器の管理に取り組む。				0.25	人文社会科学研究科比較地域文化専攻主任として業務をこなした。カリキュラムの円滑な運営だけでなく、海外沖縄研究者養成のための特別プログラムなどの事業などを推進した。法文学部の執行部の定例会議にも参加し、学部運営にあたった。複数の入試業務の運営に携わるとともに、本学の個別試験(前期)の英語の問題作成委員長を務めた。(A)				
	0.00					0.00					
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮里 厚子	所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.50	<p>前期・後期とも共通教育1科目、専門4科目を担当する。前期の語学の授業では、留学を控えている学生の語学力向上もできるだけ支援し、後期は留学から復学した学生の語学力の維持を心掛けた授業をする。専門科目では、前期は文化、後期は文学の分野に力を入れたい。</p> <p>4年次の指導教員として就職・進学に関する情報を素早く周知するようにする。また、卒業に支障がないよう就学指導には細心の注意を払う。</p>		0.60	<p>前・後期とも共通教育科目1科目、専門科目4科目を担当した。語学面においては学生の語学運用能力が上がるような授業を心掛けた。講義系の科目では、前期は文化、後期は文学の授業で学生の自律的な研究姿勢の基本が身につくよう心掛けた。</p> <p>また、4年次の指導教員として就職情報等の素早い通知に努めるとともに、必要単位の履修に遺漏がないよう各学生とともに確認した。</p> <p>学生の留学相談や検定試験の準備等にも適宜対応した。</p>	
研究	0.40	<p>琉球・沖縄とフランスの交流史についての研究をまとめる。宣教師の記録をまとめた後、海軍関係者等の資料の分析を続ける。日本仏学史学会の月例会で発表する。</p>		0.30	<p>フランス人宣教師の琉球滞在についておもに研究をまとめ、日本仏学史学会で発表した。またその内容を当該学会誌に投稿し、掲載予定となっている。</p>	
社会貢献	0.05	<p>「インテンシブフランス語I・II」を受講済みの社会人の受け皿として「インテンシブフランス語III・IV」を公開授業として提供する。</p> <p>今年度は、事情によりフランス語検定試験を春・秋ともに本学で実施するので、実施責任者・試験監督として業務を遂行する。</p>		0.05	<p>「インテンシブフランス語III・IV」を公開授業として提供し、4人の社会人を受け入れた。</p> <p>実用フランス語検定試験の実施責任者・試験監督として春季・秋季試験を実施した。またフランス語国際試験DELFの周知と実施準備に努めた。</p>	
管理運営	0.05	<p>学部「自己評価委員会」および全学「国際交流に関する自己評価委員会」委員を務める。</p> <p>学部「入試委員会」委員を務める。</p> <p>国際沖縄研究所にて編集委員を担当する。</p>		0.05	<p>学部「自己評価委員会」および全学「国際交流に関する自己評価委員会」委員を務める。</p> <p>入試委員として、専攻の入試運営が円滑に行われるよう業務を行った。</p> <p>国際沖縄研究所の併任教員として雑誌の編集委員会に携わった。</p>	
	0.00			0.00		
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		呉屋 英樹	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	学生の理解を深める為、興味ある講義への取り組みを工夫する。特に学生中心のアクティブな学習方法を確立させる。		0.25	概ね達成できた。今年度は学生からのリフレクションを活用して良い点、改善すべき点を確認できた。		
研究	0.25	獲得した科研費を活用し、さらなる研究を行い、関係する学会・学術誌に掲載されるよう取り組む。		0.20	科研費を利用して琉球大学教職大学院紀要に投稿し掲載されたまた国際的学会において自らの分野での先進的な研究を学ぶことができた。新年度の研究活動につなげていきたい。		
社会 貢献	0.20	教員免許更新講習や、学外に於ける英語教育関係の研究団体での役割を果たす。		0.25	沖縄英語教育学会の事務局長として積極的に活動した。他の研究団体との連携を深めて合同で講師を招聘しての講演会活動を計画実施することができた。教員免許更新講習や、小学校教諭への中学校英語免許付与に関わる活動、沖縄カトリック中高でのスピーチコンテストの審査を行なった。		
管理 運営	0.15	各種委員会でのスムーズな運営を目指す。		0.20	教職センター設立に関わるWGや、GTEC運営に携わるFD委員会、それから教員養成運営委員会に参加した。またその他大学運営に関わる業務をこなす事が出来た。		
進路 指導	0.15	学生の教職関係や、留学希望の学生に対してガイダンスや面談を積		0.10	教職関係のみならず、学生の英語力向上の為の面談を複数回行った。また卒業研究を目指している3年生に助言を行う事が出来た。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		三原 穰	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	「TOEIC演習」「17・18世紀イギリス文学」などを担当し、学生のニーズにこたえるのみならず、学生を教養面で良い方向に啓蒙する授業を展開するように努力する。		0.30	「英作文演習」「17・18世紀イギリス文学」などを担当し、学生のニーズにこたえるのみならず、学生を教養面で良い方向に啓蒙する授業を展開するように努力した。A			
研究	0.40	2016年度には、海外誌に英語の学術論文を投稿する。		0.40	海外誌への投稿準備も進み、現在二誌に投稿中である。A			
社会貢献	0.05	学会発表において一般の方々にも理解してもらえるような堅くない内容の発表を行うように努力したい。		0.05	書記として、学会の企画・運営などに積極的に関わった。A			
管理運営	0.20	予算委員会およびFD委員会の委員として、関連の仕事に携わる。		0.20	予算委員会およびFD委員会の委員として、関連の仕事に携わった。A			
	0.05	主に3・4年生が受講する授業ではこれからの日本社会がいかに厳しいものになるかを示すと同時に、これからの時代いかにして社会人として生き残っていくのかその方策などをあまり形式ばらずに示していく。		0.05	主に3・4年生が受講する授業ではこれからの人生がいかに厳しいものになるかを自覚させ、社会人として生き残っていくための方策などを「歴史から得られる教訓」の重要さを強調しながら示した。A			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		酒井 清	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.65	1)前期・後期で14コマ程度の講義を担当する。 2)スペイン海外文化研修を準備・実施する。 3)スペインへの留学希望者に対してカウンセリングを行い、スペインからの留学生と日本人学生の交流を促進する。			0.55	1)予定通りに講義を実施した。さらに、「第86回琉大21世紀フォーラム」に駐日スペイン大使をお招きして、講演をしていただいた。 2)4週間のスペイン海外文化研修(8月27日～9月23日)の引率を行った。 3)後期に交換留学生を1名派遣し、来年度に向けて4名ほどの留学希望者に対してカウンセリングを行った。学生の「スペイン語サークル」の顧問となった。		
研究	0.15	1)「文化共有集団による越境的ネットワークの国際比較研究」の継続に向けて、平成28年度中期計画達成プロジェクト経費を申請する 2)「越境的ネットワークの発展と拡散に関する社会心理学的研究(基盤研究(C)研究代表者:加藤潤三)」の研究分担者となり、県人会ネットワークに関する調査に関わる			0.20	1)申請を行ったものの、不採択となった。 2)ウチナーンチュ大会参加者調査など、当研究プロジェクトの様々な業務に携わった。 さらに、「沖縄語・スペイン語辞典」の校正に協力した。		
社会貢献	0.10	1)「インテンシブスペイン語 I」を公開授業として社会人へ開放する。 2)NHK国際放送と協力し、沖縄ないし日本の文化・社会についてスペイン語で発信する。 3)スペイン語能力試験「DELE」を本学外国語センターの共催で実施する。			0.10	全ての目標を達成できた。		
管理運営	0.10	予算委員として専攻の運営にあたる。 広報委員として高校訪問を行い、学部案内の作成に携わる。 学部改組に関わるワーキンググループ及び勉強会へ参加する。			0.15	当初の目標を達成した。さらに、マドリード自治大学(スペイン)及びプラタ国立大学(アルゼンチン)との交流協定の申請に関わった。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新城 郁夫	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	①共通教育指導においては、人文学的基礎と大学における研究の 動機づけを学生たちに促す。②専門教育科目および大学院教育に おいては、特に日本近代文学と近現代沖縄文学の関連性について の応用的研究の実践にむけて、指導を徹底していく。			0.00	①、②の目標をすべて達成した。		
研究	0.35	科研費テーマの「沖縄文学成立に関する基礎研究」についての研究論文を発表し、 同時に、国内外の学術会議やシンポジウム等で、口頭発表を行う。			0.00	論文3本を国内外の学術雑誌に発表した他、成蹊大学主催学術会議や広 島女性研究所主催国際会議で発表を行うなど、当初の目標を超える達成 があった。		
社会 貢献	0.10	大学における社会人公開講座等(共通教育「琉球アジア文化入門」) の機会を最大限に活用し、専門知の地域社会への還元を図り、社会 貢献を積極的に果たしていく。			0.00	論文3本を国内外の学術雑誌に発表した他、立教大学主催国際会議で発 表を行うなど、当初の目標を超える達成があった。		
管理 運営	0.10	将来構想委員会委員、および学部改組ワーキング・グループ委員としての仕事を 行う。			0.00	当初の目標を達成した。		
	0.10	卒論および修論指導、博士課程指導と就職指導を行っていく。			0.00	当初の目標を達成した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定して ください。			0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西森和広	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	前期は共通教育科目2コマ、学部専門科目4コマ、大学院科目1コマ、後期は共通教育科目3コマ、専門科目3コマを担当する。			0.45	前期は共通教育科目2コマ、学部専門科目4コマ、大学院科目1コマ、後期は共通教育科目3コマ、専門科目3コマを担当した。専攻課程の新一年次生の指導教員を務めた。		
研究	0.40	レオーネ研究並びに映画史関連研究を継続する。フランス語新文法書作成のための共同プロジェクトを継続・推進する。論文または研究ノート一点以上を発表する。			0.30	レオーネ研究並びに映画史関連研究に関する研究ノートを一本公表した。フランス語新文法書作成のための共同プロジェクトを継続して行った。		
社会 貢献	0.05	琉球大学びぶりお文学賞(附属図書館主催)の小説部門選考委員を務める。日本フランス語フランス文学会九州支部運営委員を務める。			0.10	琉球大学びぶりお文学賞(附属図書館主催)の小説部門選考委員を務めた。日本フランス語フランス文学会九州支部運営委員を務め、また本年度支部大会開催のホスト校の代表責任者として会の運営に携わった。		
管理 運営	0.15	営利企業役員等兼業審査委員会委員、学士教育プログラム委員会委員、総合情報処理センター広報委員会委員、法文・観光科学部教育後援会学内理事、法文学部教育委員会委員、法文学部図書・紀要委員会委員、その他委員会委員を務める。			0.15	営利企業役員等兼業審査委員会委員、学士教育プログラム委員会委員、総合情報処理センター広報委員会委員、法文・観光科学部教育後援会学内理事、法文学部教育委員会委員、法文学部図書・紀要委員会委員(半期)、その他委員会委員を務めた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		石原 昌英	所 属		法文学部 国際言語文化学科
職 名				教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通教育(英語講読)については、対象学生の専門分野と英語力に応じた講義を行う。</li> <li>・学部高年次学生及び大学院を対象とした社会言語学的なテーマを扱う授業では、新しいテーマに取り組む。</li> <li>・博士課程1年の指導学生(前期・後期それぞれ1名)の研究テーマ・研究方法・研究計画について適切な指導を行い、学生の研究がスムーズに実施できるようにする。</li> <li>・博士論文執筆中の学生については、査読誌への投稿論文へのアドバイスを行うとともに、期限内に論文提出ができるよう適切な指導を行う。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農学部の学生を対象として「英語講読演習上級」を担当し、はNational Geographicsの食の安全に関する特集記事を教材とした。学生からは自分たちの専攻とする分野についての一般的な記事を英語で読むことに対する評価が高かった。</li> <li>・学部の「言語コミュニケーション特殊講義」では統計資料に基づいて日本における「英語言説」について論じたテキストを用いて、受講学生が日本人と英語について考える機会を与えた。また、大学院の「言語構造・機能特論/演習」「言語政策特論/演習」では「言語と格差」「言語と貧困」をテーマとしたテキストを用いて、優勢言語と劣勢言語の関係、劣勢言語話者の言語的人権について講義した。受講学生にとっては、言語の社会的意義について考える機会となった。</li> <li>・博士前期課程1年次の学生の修士指導については、研究テーマの絞り方、研究方法(文献調査・インタビュー調査)を中心に指導したが、当該学生は後学期から休学した。博士後期課程1年時の学生の博士論文の指導については、インタビュー調査の方法とその分析の仕方を中心に指導した。研究は順調に進捗している。</li> <li>・博士論文執筆中の学生については、インタビュー調査で収集したデータの分析、投稿論文の内容について指導した。事情により遅れぎみに進捗している。</li> </ul> (自己評価:A)
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球諸語の復興・再活性に向けた研究を進展させる。</li> <li>・昨年度進展がなかった、琉球とハワイにおける西洋人と現地人との言語接触の研究を進展させる。</li> <li>・研究分担者として参加する科研費(基盤研究B)について、沖縄およびグアムにおける米国の言語政策及びその受容についてデータを収集し、分析を行う。</li> </ul>		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁の調査を受託し、事業の責任者(研究代表)として調査を統括し、契約期限内に調査を完了した。</li> <li>・Patrick Heinrichと琉球諸語復興の現状を分析した共著論文を執筆し、査読の結果ヨーロッパの出版社が刊行する研究書に掲載されることになった。</li> <li>・言語接触の研究については、文献調査を実施したが、大きな進捗はなかった。</li> <li>・科学研究については、USCAR発行の文献でテーマに関連する資料を分析した。また、グアム大学においてグアムにおける米国の英語政策とその影響について文献調査・インタビュー調査を通して収集した資料を分析した。</li> </ul> (自己評価:B)
社会 貢献	0.10	沖縄県のしまくとぅば復興に向けた取組について研究者として支援する。		0.10	文化庁の「危機的な状況にある言語・方言に関する研究協議会」の委員として、沖縄県の言語復興活動に関して報告した。また、県内新聞からのインタビューを受け、研究者としての意見を述べた。 (自己評価:A)
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法文学部の教育研究評議員及び副学部長として、関連のある学部委員会等での職責を果たすとともに、学部長を補佐し、円滑な学部運営が行われるようにする。</li> <li>・全学の委員会において積極的に発言し職責を果たす。</li> </ul>		0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法文学部の副学部長(教育研究評議員)として、教育委員会、広報委員会の委員長の職責をはたした。</li> <li>・全学委員会(教育研究評議会、グローバル教育支援機構会議、広報委員会等)に出席し、積極的に発言した。</li> <li>・全学的なWG(「戦略的ポスト再配分」「大学院改組」等)の委員として大学改革に関与した。</li> <li>・法文学部・観光産業科学部の改組に関わる委員会・WGの委員として、改組の枠組及び関連する事項(カリキュラム、課程認定、入試)の取りまとめ作業に参加した。</li> </ul> (自己評価:S)
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	石川 隆士		所 属	法文学部 国際言語文化学科		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	1)大学院前期週1コマ、後期週2コマ、学部前期週8コマ、後期3コマ、計14コマの授業を行う。(他にノルマ外で卒論指導7人) (2)大学院科目、学部専門科目の「現代イギリス文学」、「イギリス文学研究II」は専門領域である英文学について平成28年度に執筆した論文の研究結果を反映させる。(3)卒論担当の学部生に進学、就職についての指導を行う。(4)修論指導の大学院生に進路を射程に入れた修学相談、指導を行う。		0.00	ノルマ外のものも加え、予定通り実施した。S		
研究	0.30	平成27年度科学研究費、挑戦的萌芽研究「風の詩学：竖琴と螺旋」の研究を推進し、少なくとも「風の詩学」に関する研究発表を1件実施し、論文を1本執筆する。		0.00	予定通り実施した。学術論文：「Noli me Tangere: "Nineteen Hundred and Nineteen" における触れる風」(査読有)。研究発表：国際学会「Positive Perspective in the Ambiguity in Yeats's Wartime Poems」、 「Antithetical Rubrics for the Assessment in Collaborative Learning」。国内学会「生贄を誘う女：“Easter, 1916”における畏怖という名の覚醒」。S		
社会 貢献	0.10	(1)大学間連携IR事業を通じて、琉球大学IR事業の進展および英語教育の広報に努める。(2)琉大コミュニティキャンパス事業本部員として琉大の地域貢献事業に貢献する。		0.00	予定通り実施したものに加え、出前講座1件(首里高校)、公開授業1件を行なった。S		
管理 運営	0.30	学長補佐(教育担当)として全学的な教育に関する企画立案及び運営を実施する。		0.00	予定通り実施し、担当する範囲以外の業務も多数こなした。S		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		赤嶺守	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	共通教育前期2コマ・後期2コマ、学部前期4コマ・後期4コマ、博士前期課程前期2コマ・後期2コマ、博士後期課程前期1コマ・後期1コマの授業を担当する。2、学士論文・修士論文・博士論文提出者の論文指導をおこなう。			0.30	左記の項目を予定通り全て履行した。		
研究	0.30	1、歴代宝案の文書学的研究をおこなう。2、「琉球処分」と脱清人について研究をおこなう。3、琉球王国研究文献目録を作成する。4、冊封関連の研究をおこなう。5、戦後、台湾における沖縄籍引揚者に対するインタビュー調査を実施する。6、台湾大学所蔵「冠船日記」の翻刻作業をおこなう。5、戦後台湾からの引き揚げに関する研究をおこなう(科研基盤研究C)			0.30	左記の項目を予定通り全て履行した。		
社会 貢献	0.20	1、歴代宝案調査専門委員会副委員長として歴代宝案関連資料の調査収集をおこない、歴代宝案編集委員として『歴代宝案』第6冊の訳注本の作成に取り組む。2、台北故宮博物院における中琉関係档案史料の編集事業に協力する			0.20	左記の項目を予定通り全て履行した。		
管理 運営	0.20	1、進路支援委員会の委員業務を務める。2、附属図書館研究開発室員としての業務を遂行する。			0.20	左記の項目を予定通り全て履行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		赤嶺 政信	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.35	①研究業績の授業への活用する。②授業終了後に感想や質問を書かせて授業改善に役立てる。③担当コマ数:共通教育1, 専門教育5、大学院3		0.35	①研究業績の授業への活用する。②授業終了後に感想や質問を書かせて授業改善に役立てる。③担当コマ数:共通教育1, 専門教育5、大学院3コマを担当した。			
研究	0.25	論文を1本以上執筆する。		0.25	論文を1本以上執筆した。			
社会貢献	0.25	①沖縄民俗学会の運営委員として、市民参加型の学会を運営する。②沖縄市、糸満市、宜野湾市、金武町の市史編集委員会や文化財保護等の委員をつとめ、研究成果を市民に還元する。③沖縄県史の編集委員をつとめる。		0.25	①沖縄民俗学会の運営委員として、市民参加型の学会を運営した。②沖縄市、糸満市、宜野湾市、金武町の市史編集委員会や文化財保護等の委員をつとめ、研究成果を市民に還元した。③沖縄県史の編集委員をつとめた。			
管理運営	0.10	人文社会科学研究科の「年度計画小委員会」の委員をつとめる。		0.10	人文社会科学研究科の「年度計画小委員会」の委員をつとめた。			
	0.05	大学院進学志望者に対して助言を行う。		0.05	大学院進学志望者に対して助言を行った。			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		大胡 太郎		所 属		国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	専門教育(日本古典文学、日本古典語研究)に従事するとともに、教職科目(国語、国語科教育法D、教職実践演習)の授業の充実を図る。				0.30	専門教育(日本古典文学、日本古典語研究)に従事するとともに、教職科目(国語、国語科教育法D、教職実践演習)の授業の充実を図った。				
研究	0.20	古代文学会の維持会員、物語研究会の会員としての活動を充実させる。 教職科目(国語)に関わる論文を執筆する。				0.20	紀要『琉球アジア文化論集』に論文「仲宗根政善『ひめゆりの塔をめぐる人々の手記』の(再)教材化への一考察」を執筆寄稿した。 物語研究会の学会誌『物語研究』に、学術研究書、藤井貞和著『日本文学源流史』の書評を寄稿し掲載された。				
社会貢献	0.20	カルチャースクール「桜坂市民大学 源氏物語の世界」講座を継続して講義する。				0.20	カルチャースクール「桜坂市民大学 源氏物語の世界」講座を継続して講義した。				
管理運営	0.10	共通教育人文系科目企画小委員会の委員長として人文系科目の充実を図る。				0.10	共通教育人文系科目企画小委員会の委員長として人文系科目の充実を図った。				
進路指導	0.20	教職(国語)の担当教員として、教員養成、教職指導に努め、教員採用試験合格者の卒業生を招いて、教職履修学生に講話を受講させるなど、教職についての指導を充実させる。				0.20	教職(国語)の担当教員として、教員養成、教職指導に努め、教員採用試験合格者の卒業生を招いて、教職履修学生に講話を受講させるなど、教職についての指導を充実を図った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平良 妙子	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.00	共通教育として中国語教育と中国古典文学、中国現代文学の科目を担当する。専門教育において中国文学の科目を担当する。			0.00	共通教育として中国語教育と中国古典文学、中国現代文学の科目を担当する。専門教育において中国文学の科目を担当したが、2月上旬より病気治療療養のために休職した。		
研究	0.00	中国と琉球王国の関係の中で琉球人による「琉球漢詩」の研究を進め、論文を執筆する。			0.00	中国と琉球王国の関係の中で琉球人による「琉球漢詩」の研究を進め、論文を執筆した。(未刊)		
社会 貢献	0.00	台湾での中国・台湾・沖縄の合同の研究会に出席し発表を行い、論文文化する。			0.00	H28年12月に、台湾にて研究発表した。		
管理 運営	0.00	教育委員として便覧、シラバス、時間割の編成などの業務をおこなう。			0.00	教育委員として便覧、シラバス、時間割の編成などの業務をおこなった。		
	0.00				0.00			
計	0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		鈴木 正士	所 属		法文学部 国際言語文化学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	卒業論文作成を指導する。授業における欠席者や遅刻する学生に対して、理由を尋ね解決策をともに考え、より積極的な授業参加を促す。レポートの書き方を指導する。オフィスアワーを定め、学生の質問や相談に応じる。学生の進学・就職に関し、必要に応じて指導・助言する。就職センターの存在を知らせたり、就職講演会への出席をはかったりするなど、学生の就職意識を高める。学生の留学相談に応じ、協定校やメキシコ政府留学生試験などについての助言・指導を行う。		0.40	卒業論文作成を指導する。授業における欠席者や遅刻する学生に対して、理由を尋ね解決策をともに考え、より積極的な授業参加を促す。レポートの書き方を指導する。オフィスアワーを定め、学生の質問や相談に応じる。学生の進学・就職に関し、必要に応じて指導・助言する。就職センターの存在を知らせたり、就職講演会への出席をはかったりするなど、学生の就職意識を高める。学生の留学相談に応じ、協定校やメキシコ政府留学生試験などについての助言・指導を行う。
研究	0.20	2016年夏ドイツ国ミュンスター大学で開催される国際イスパニヤ学会において、『ドン・キホーテ』に関する発表をおこなう。神戸市外国語大学で開催される日本イスパニヤ学会において、研究発表をおこなう。翻訳を終了したセルバンテス『模範小説集』が滞りなく出版されるよう努力する。スペイン現代作家ホセ・マリア・メリーノの作品を引き続き翻訳し発表する。		0.20	2016年夏ドイツ国ミュンスター大学で開催される国際イスパニヤ学会において、『ドン・キホーテ』に関する発表をおこなう。神戸市外国語大学で開催される日本イスパニヤ学会において、研究発表をおこなう。翻訳を終了したセルバンテス『模範小説集』が滞りなく出版されるよう努力する。スペイン現代作家ホセ・マリア・メリーノの作品を引き続き翻訳し発表する。
社会 貢献	0.10	「インテンシブスペイン語I・II」を公開授業として提供する。		0.10	「インテンシブスペイン語I・II」を公開授業として提供する。
管理 運営	0.30	専攻主任として遅滞なく業務が進むようつとめる。学部の大学院年度計画検討小委員会、さらに当委員会のWGの一員としての任務に努める。		0.30	専攻主任として遅滞なく業務が進むようつとめる。学部の大学院年度計画検討小委員会、さらに当委員会のWGの一員としての任務に努める。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	